

学位授与番号	医博乙第 1091 号
学位授与年月日	平成 2 年 3 月 20 日
氏 名	高 井 勇 學
学位論文題目	各種口腔疾患患者の <i>Fusobacterium nucleatum</i> に対する血清学的反応

論文審査委員	主 査	山 本 悦 秀
	副 査	中 村 信 一
		右 田 俊 介

内容の要旨および審査の結果の要旨

口腔癌の感染病巣から *Fusobacterium nucleatum* (*F. nucleatum*) が高率に分離される。そこで著者は健康人104名(11~80歳)、非炎症性口腔疾患を有する患者136名(11~75歳)、炎症性口腔疾患を有する患者127名(12~80歳)、口腔癌患者23名(19~82歳)血清中の *F. nucleatum* に対する抗体価を測定し、口腔癌患者における *F. nucleatum* に対する免疫の特異性について検討した。抗原としては *F. nucleatum* KO-31株の培養上清から作製したTFT-310(本態はリボ多糖)を用い、間接赤血球凝集反応により抗体価を測定した。得られた成績は以下のごとくである。

(1)凝集活性は分画採取用アガロース電気泳動上γーグロブリンに相当する画分に認められた。TSKgel G3000SWカラムクロマトグラフィーによる解析では凝集活性は最初のピーク(IgMに相当)にのみ認められた。凝集活性は、抗ヒト全血清、Ig、IgM抗体により中和されたが、抗ヒトIgG、アルブミン抗体によっては中和されなかった。また血清を2-メルカプトエタノールで処理した結果、凝集活性は消失した。以上の結果、抗TFT-310抗体はIgMであることが判明した。(2)健康人104名中74名(71.2%)が32~128の抗TFT-310抗体価を有していた。16以下の低抗体価を示す例は10名(9.6%)にすぎなかったが、512以上の高抗体価を有する例は12名(11.5%)存在した。(3)非炎症性口腔疾患患者症例136例中108例(79.4%)、炎症性口腔疾患患者症例127例中104例(81.9%)が32~128の抗TFT-310抗体価を示した。16以下の低抗体価を示す例は、非炎症性口腔疾患症例群、炎症性口腔疾患症例群では各々23例(16.9%)、18例(14.2%)存在し、健康人よりやや多かったが有意差は認められなかった。512以上の高抗体価を示す例は、非炎症性口腔疾患症例群、炎症性口腔疾患症例群では各々3例(2.2%)、1例(0.8%)にすぎず、健康人より有意に少なかった($P<0.001$ 、 $P<0.001$)。(4)口腔癌患者症例の抗TFT-310抗体価は被験23例全例共に8以下であった。8以下の抗体価を示した症例は健康人群、非炎症性口腔疾患症例群、炎症性口腔疾患症例群では各々1例(1.0%)、5例(3.7%)、4例(3.1%)にすぎず、8以下の低抗TFT-310抗体価は口腔癌患者の特徴と考えられた。(5)抗大腸菌リボ多糖抗体価は健康人群(10名)、口腔癌患者群(5名)共に64~512であった。

以上、本研究は、*F. nucleatum* に対する抗体を解析し、口腔癌患者では本菌に対する抗体産生能が低下していることを明らかにしたものであり、口腔細菌学、口腔腫瘍学に寄与する価値ある労作と評価された。